

製品名: Lsk ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13460**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	MATK
別名	MATK; CTK; HYL; Megakaryocyte-associated tyrosine-protein kinase; CSK homologous kinase; CHK; Hematopoietic consensus tyrosine-lacking kinase; Protein kinase HYL; Tyrosine-protein kinase CTK
遺伝子 ID	4145.0
SwissProt ID	P42679
免疫原	ヒト Lsk の内部領域から得られた合成ペプチド。

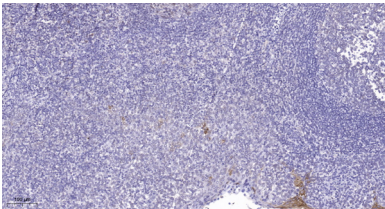
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Csk チロシンキナーゼとアミノ酸配列の相同性を有し、CSK サブファミリーの構造的特徴 (SRC 相同性 SH2 および SH3 ドメイン、触媒ドメイン、固有の N 末端、ミリスチル化シグナルの欠如、負の調節リン酸化部位の欠如、および自己リン酸化部位の欠如) を有する。このタンパク質は、造血細胞のシグナル伝達において重要な役割を果たすと考えられている。Src ファミリーキナーゼをリン酸化して不活性化することができ、T 細胞増殖の制御において阻害的な役割を果たす可能性がある。このタンパク質は、一部の乳がん症例におけるシグナル伝達に関与している可能性がある。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 3 つの選択的スプライシング転写バリエーションが記載されている。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: $ATP + a \text{ [タンパク質]-L-チロシン} = ADP + a \text{ [タンパク質]-L-チロシンリン酸}$ 。機能: 造血細胞のシグナル伝達において重要な役割を果たす可能性がある。脳内の SRC ファミリーメンバーのチロシンキナーゼ活性を、負の調節部位として機能する C 末端調節チロシン残基を特異的にリン酸化することにより調節する可能性がある。T 細胞増殖の制御において阻害的な役割を果たす可能性がある。、PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。CSK サブファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、類似性: 1 つの SH2 ドメインを含みます。、類似性: 1 つの SH3 ドメインを含みます。、組織特異性: さまざまな骨髄細胞株で発現し、脳と肺で検出されます。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。2、抗体を 1:200 に希釈した (4°で一晩)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。